# ビハーラリポート

## No. 64

http：／／vihara. main. jp／

北秋田市太平寺　南無能化水子子育地蔵尊　「小さな生命に供養の心を」

CONTENTS


- 臨時総会と「東日本大震災」被災地支援について……2
  ビハーラ秋田　代表　新川泰道
- ビハーラ平成２３年度臨時総会報告……3
- 各会員による被災地活動報告……5
  宝昌寺住職/ 新川泰道、　赤十字奉仕団員/富樫善明、　奈良医院院長/奈良正人
- ビハーラ秋田復興支援プロジェクト……10
  第 1～3 回　ボランティアバス他
- インフォメーション……14
- アンケート結果報告……16
- 各地区事務局……22

## 臨時総会と「東日本大震災」被災地支援について

ビハーラ秋田　代表　新川泰道

残暑も緩み、秋の気配が感じられる今日この頃となりましたが、会員の皆様におかれましては変わらずお過ごしのことと存じます。

４月に臨時総会、その後被災地復興支援の「チャリティＴシャツ」販売、ボランティアバスの実施など、目まぐるしく新たな企画が立ち上がりましたが、リポート上で改めてのご報告が遅くなり、誠に申し訳ありません。

臨時総会では、以前より懸案としておりました当会の名称について、全国に数多ある「ビハーラ」関連の諸団体や施設との区別と、当会が秋田を拠点にささやかながら活動している団体であることの明確化から、正式に「ビハーラ秋田」と会の名称を統一していくこととさせていただきました。またこの度の東日本大震災において、当会も微力ながら支援の一端を担わせていただきたく、会員皆様のお知恵とお力をお寄せいただくため、補正予算と随時各種取り組みを行っていくことをご承認いただきました。

臨時総会に引き続き行われた「被災地報告会」では、様々な枠組みで陸前高田・釜石などの被災地で活動された会員から貴重な体験をご報告いただき、情報と意識の共有に資する得がたい機会となりました。

その後、会員の皆様から物心両面のご支援をいただき、５月から「チャリティＴシャツ」（秋田県曹洞宗青年会との共同企画）の販売、計３回にわたるボランティアバスの実施を行わせていただきました。おかげさまでこのＴシャツは全国各地から３千枚を超えるご注文をいただき、その収益で現地の要望に沿って活用させていただいております。

またボランティアバスにおいては、北秋田市スポーツ少年団のバスを利用させていただき、３回で会員内外の延べ７２人の参加者が現地にてガレキ撤去や仮設住宅への訪問活動に赴いております。

臨時総会の段階では具体的な支援策が構築されていないにも関わらず、会員の皆様がこの度の未曾有の大災害に少しでも力になりたい、とのご意志を表明していただいたことにより、現在に至っております。あらためて厚く感謝申し上げます。

今後は秋から冬にかけて、遠方からの支援が徐々にフェードアウトしていくことが予想されますが、地元や近県の継続的な被災地との関わりが求められ、点から線へ、さらには面へという支援が必要とされています。

度々申してきましたが、この度の大災害は同じ東北の、同時代に生きる者として現実と課題をしっかり受け止めねばならぬ責務があると感じています。

今後も当会の活動、また被災地への現状に目を向けていただき、温かいご指導ご援助を何卒よろしくお願い申し上げます。　　合掌

## ～東日本大震災をうけて～

# ビハーラ　臨時総会報告

平成 23 年 4 月 23 日、能代市仁井田の倫勝寺において、ビハーラ臨時総会を開催することとなりました。そこでは、3 月 11 日に発生した東日本大震災による多大な人的被害、物的被害の深刻な状況に対してビハーラとしての対応が協議されました。

「大震災によって被災された方々に対してビハーラとして何ができるのか」、亀谷さん（北秋田市太平寺住職）を議長として会員 11 名（委任状 61 通）の出席の下、様々な意見交換が行われました。また、補正予算の説明と会の名称変更（ビハーラからビハーラ秋田へ）に関する意見も出され、ご承認いただきました。

# 平成23年度　ビハーラ収支　補正予算（案）

平成23年1月1日～12月31日

*収入の部*　　単位：円

| 項　　目 | 当初予算額 | 補正予算額 | 増　減 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1, 繰越金 | 80,232 | 80,232 | 0 | |
| 2, 年会費 | 200,000 | 200,000 | 0 | 過年度分含む |
| 3, 寄付金・協賛金 | 10,000 | 60,000 | 50,000 | 「震災復興支援プロジェクト」への募金含む |
| 4, 雑収入 | 10,000 | 10,000 | 0 | 利子等 |
| 合　　計 | **300,232** | **350,232** | **50,000** | |

*支出の部*　　単位：円

| 項　　目 | 当初予算額 | 補正予算額 | 増　減 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| Ⅰ 事業費 | **120,000** | **170,000** | **50,000** | |
| 1, 公開講座運営費 | 0 | 0 | 0 | |
| a 講師謝礼等 | 0 | 0 | 0 | |
| 2, セミナー運営費 | 90,000 | 90,000 | 0 | |
| a 講師謝礼 | 60,000 | 60,000 | 0 | 1万×6回 |
| b 講師宿泊費 | 0 | 0 | 0 | |
| c 講師交通費 | 0 | 0 | 0 | |
| d 会場費 | 30,000 | 30,000 | 0 | |
| 3, リポート作成費 | 30,000 | 30,000 | 0 | |
| a 編集手当て | 10,000 | 10,000 | 0 | 5千×2回 |
| b 講演録リライタ | 15,000 | 15,000 | 0 | 1万5千×1回 |
| c 用紙等 | 5,000 | 5,000 | 0 | |
| 4, 臨時事業費 | 0 | 50,000 | 50,000 | 「震災復興支援プロジェクト」費用 |
| Ⅱ 事務費 | **110,000** | **110,000** | **0** | |
| 1, 通信費 | 70,000 | 70,000 | 0 | 葉書、切手、振替手数料、HPｻｰﾊﾞ |
| 2, 会議費 | 30,000 | 30,000 | 0 | 総会、事務局会等室料 |
| 3, 事務用品・消耗品 | 10,000 | 10,000 | 0 | |
| Ⅲ 雑　費 | **20,000** | **20,000** | **0** | |
| Ⅳ 予備費 | **50,232** | **50,232** | **0** | |
| 合　　計 | **300,232** | **350,232** | **50,000** | |

| | |
|---|---|
| 収入合計 | **350,232** |
| 支出合計 | **350,232** |
| 残　金 | **0** |

# 各会員による被災地活動報告

臨時総会に引き続き、災害ボランティアとして被災地に赴かれた会員による被災地報告会が開催されました。ここでは、様々な立場で被災地に赴かれている会員さんがいることを改めて知ると同時に、医療・福祉・宗教の連携の中でこの震災との関わりを考えるよい機会となりました。

## ◈ 藤里町宝昌寺住職　新川泰道

３月 11 日発生の東日本大震災という未曾有の大災害に際して、連日の報道に心を痛めるものの、あまりにも広範囲の被害であることやガソリン不足、お彼岸の時期でもあることから二の足を踏んでいる状態でしたが、秋田県曹洞宗青年会（以下、秋曹青）の中で被災地への救援物資搬送の計画が固まり、３月 22 日に県内各地の寺院や㈱いとく様等の企業から寄せられた支援物資を２ｔトラックとワゴン車に積み込み、また携行缶で道中のガソリンと軽油ポリタンク数個も持参、岩手では給油しない覚悟で翌 23 日に陸前高田、２４日に釜石・大槌とお届けに行きました。事前に岩手県内寺院はもとより仏具店、旅行会社などの関連業者から極力リアルタイムでの情報収集に努め、「〇〇寺の避難所は味噌・醤油が底をつきそうだ」「食料は何とかなりそうだが歯ブラシや下着が不足」といった現状を耳にし、集積する物資の過不足を調整しつつ、出発の日を迎えました。

22 日は一関市の長泉寺様（岩手曹青会長の新沼師自坊）のご好意により拝宿、貴重な情報交換の機会とし、翌朝は岩手曹青の面々と共に陸前高田へ。まだ海が見えない地域ながら、無残にも津波被害を受けた住宅や建物の姿が目に飛び込み、更に沿岸部へ進むと戦地を思わせるような、町が破壊された様子に言葉が出ませんでした。「路肩を走ると釘でパンクするかも」との注意をあらかじめ受けており、慎重に運転しながら目的の普門寺様へ。高台にあり津波の直接的被害は免れたものの、避難所や物資分配の拠点としてご尽力されたとのこと。ちょうど盛岡市の寺院から救援物資が届いたばかりで、我々の物資をより規模の大きいサンビレッジ高田へとの指示。刻一刻と事情が変化するのが被災地の常であり、臨機応変な対応が求められることをあらためて実感。翌日訪れた釜石・石応禅寺では、多い時で千人分もの炊き出しを行っていた

という、この地域の支援拠点となったお寺です。物資をお届けがてら、次の支援策に向けて地元の炊き出しチームの方々と懇談、断水が既に十日以上となり、入浴へのニーズが高いことから対策を協議。続いて大槌町・吉祥寺様へ。こちらも避難所としてお寺が活用されていますが、地域住民の自主運営がしっかり、かつアットホームな雰囲気。ご住職の案内で、町の主要部や災対本部、そして遺体安置所に案内してもらいました。本来は部外者立入禁止の場所ですが、多用の中で朝夕二回は安置所を訪れるという彼の後で、犠牲となられた方々のご冥福をお折りさせていただきました。身元確認に訪れる家族とご住職の間には、言葉にならない、それでいて確かな絆が感じられました。被災地での深い悲しみと、真摯に対応するご住職や地元の方々の姿を目の当たりにし、できる限りこの人達を応援していこうと決意した瞬間でありました。

その後、3/31 に釜石市、大槌町へ秋田の名湯「鶴の湯温泉」から源泉千Ｌを提供いただき、「足湯サービス」を行いました。全身の入浴には自衛隊並みの資材や準備が必要ですが、せめてものリラックス効果を狙ったものです。鶴の湯温泉で源泉を汲み出し、釜石市の旧第一中学校避難所と大槌町・吉祥寺様の２ヶ所で実施、また同時進行での「ミニ行茶」では、足湯待ちの時間を利用して急須でのお茶やドリップしたコーヒーをサービス。厳しい避難生活で、僅かながらのリフレッシュになったのではと思われます。

発災から１，２日は防寒対策、３～７日間は水・食料の確保、１～３週間は衛生面・栄養面の配慮、それらと平行して精神面のケアなど、時期に応じて被災地のニーズは刻々と変化します。今後も息の長い支援が必要であることを痛感し、同じ東北で我が県の果たす役割は大きいと思われます。災害時は被災地の内外共、常に“非日常”を少しずつ“日常”に戻していく地道な作業の連続です。その過程の中で、私達も日々のありようを見つめ直し、これまでの至らぬ点を再発見していくことでもあると考えます。

少なくてもこの一年は、この度の震災に関する活動に特化されることも予想されますが、もちろん当会の多くの方々が被災地へ赴くことは困難であろうと思われます。「“いのち”を見つめる」との主旨を掲げてきたビハーラとしては、会員の皆様でお気持ちを一つにしていただき、被災者への支援を通じて、結果として私達自身に大きな“学び”や“気づき”をもたらす機会として、当会の関わりを考えていきたいと存じます。何卒ご理解ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

以上

## ◈ 赤十字奉仕団員　　富樫善明

私は、赤十字ボランティアとして赤十字医療救護班に同行する形で３月１６日～18 日にかけて、岩手県陸前高田市立第一中学校に行き、情報収集活動等を行いました。

３月１６日（地震発生の翌週、秋田でも２度の停電が復旧し、ガソリン不足で車がスタンドに渋滞している頃)、朝方に秋田赤十字病院を出発し、陸前高田市立第一中学校に到着しました。

赤十字医療救護班が学校内に臨時の救護所を作り診療活動をする一方で、私は、まず体育館等の周辺の様子を見て回りました。そのうちわかったことは、市行政が機能していないということでした。なぜなら市の職員が津波に流されてしまっているためです。また、県行政も機能していないということがわかりました。なぜなら被災地が広範囲すぎて県の職員が各地域を回れない、あるいは短期的であって継続的かつ長期的に滞在できないからです。そのような中で、避難された住民の方々が主体的な自治を行い、避難所内のボランティア活動をも運営し、非難している若者達を募り、物の運搬や体操やアナウンスや掃除や炊き出し等がなされているということがわかりました。中国からの技能実習生の女性達も避難生活の中で、地域住民の和の中にとけこもうと体育館のステージで自己紹介や感謝の歌を合唱したりしてがんばっていました。

３月１７日、被災した市街地の様子を見て歩きました。山々は普通であるが市街地は別世界であり、一歩踏み入ると、泥のぬかるみ、がれき等のため、転倒や怪我あるいは心理的な負担の原因となるものがあたり一面に散在しており、２人で行動しながら二次事故の危険性を避けなければなりませんでした。木端微塵の廃墟に驚きとため息を覚えつつ、赤十字防災ボランティアとして何ができるかを模索しました。

そこで、何かできることがないかを引きだすために、避難所の運営本部に挨拶・相談をしに行きました。運営本部担当者からは、赤十字ということから『衛生的な周知』に関しての支援をお願いされました。具体的には、マスクの着用・手洗いの周知はしてはいるものの、なかなか徹底されないため、再度アナウンスで徹底をしていただけるとありがたい、というお話でした。さっそく医療救護班より、何か周知してもらいたいことがあるか、合間をみて聞きとる機会を得て、その内容を全館にアナウンスしてもらいました。

また、臨時市役所（陸前高田市立学校給食センター）に行き、赤十字防災ボランティア・であることを伝え、担当の方

に挨拶をしました。そこでは、１階の給食室全体が、救援物資の倉庫となっているおり、配送のトラックがひっきりなしに出入りし作業が続いていました。また安否不明者を探す方々が多くいました。

３月 18 日、臨時市役所の２階にある社会福祉協議会ボランティア募集受付を通して、一般ボランティアとして救援物資の積み込み作業を行いました。人が交互に並び、物資を手渡すラインをトラックに積み込むというものです。米・水・カップラーメン・たまご・りんご等、休憩もなく重労働であり、参加者は、地元の行政の方々や若者の有志で、名札をつけているものの、隣りの人が誰なのかまったくわからず不安でもありました。

そうして、午後には陸前高田市立第一中学校を出発し帰途につきました。

３月 19 日、秋田に帰った翌日の午前中、秋田駅前のポポロードにおいて赤十字学生ボランティア役 100 名による街頭募金に参加しました。また、秋田県庁ロビーや各地域振興局においては、救援物資の収集と仕分け作業が行われており、これに他の赤十字奉仕団員も参加していました。

～感　想～

最も心に残ったことは、木端微塵となった廃墟の市街地を行く途中、堤防のコンクリート上で、うつぶせになり亡くなっている人の姿に出会ったことです。
産まれて初めて見るあまりにも悲惨な死の姿と滅せられたかのような町の光景に対して、手を合わせることしかできませんでした。しかしその一方で、自分自身の態度をつくろうすべがなく、ただ合掌という態度に逃げ込んでいるだけの己を感じました。　また、私はその光景に対して『広島の原爆の焼け跡と、ゆき倒れなった多くの人の姿そのもの』に重なる印象を強く受けました。

これから『東日本大震災で被災され廃墟となった市街地と亡くなられた人達の死』という印象をどのようにして丁寧に、心から受け止めて行くことができるのか、このことを自分自身の心を通して真正面から真剣に問い考えなければならないと思いました。それなくして、自分自身、滅と死の印象から生への道筋を見いだすことができないのではないかとさえ思います。　以上

## ◈ 奈良医院院長　奈良正人

秋田県は東日本大震災発生の３月１１日から１６日まで DMAT（災害派遣医療救援チーム）を派遣し急性期の災害医療を行った。秋田県医師会は３月１８日から慢性期の災害医療を行うため「秋田県災害医療救護チーム」の編成と派遣を行うことを決め、岩手県釜石市で避難所の巡回診療を開始した。救護活動は県内各病院のチームで繋ぎ、３月末からは医師会員のチームも加わって毎日行われた。４月１２日には避難所の一つである釜石市市民交流センター体育館に救護所が設置され、救護活動の拠点となった。

JMAT（日本医師会チーム）として私と看護師、運転手と４名を奈良医院チームとして登録。４月２０日（水）に出発し、釜石市に近づくにつれ支援派遣の自衛隊車輌が多く見られ、道路もウエーブし、ほこりっぽく感じられるようになった。車を通すため道路は片付けられていたが、周りはガレキの山で災害の影響が残されたままだった。市民交流センター体育館で秋田組合病院 DMAT チームと合流し打ち合わせの後、秋田県派遣県職員と避難所二ケ所の巡回診療に出発。診察というより健康相談でサポートしようと思い、白衣を脱ぎ作業服で活動。巡回診療では往診２件３名を含み、延べ２３ケース２１人。市民交流センター体育館の救護所で１名、合計２２名の患者さんを診察。薬剤対応もできるようになっており処方箋も発行。お話を聞いてあげ、

血圧を測るだけでも行って良かったと思った。

交流センターでは電気は復旧していたが水道の回復は未だで、仮設トイレの使用や手洗いは避難者のことを考え極力遠慮した。子供達はその日から新学期ということで午後になってから避難所で会ったが元気がなく、パワーを少しでも置いてこようと、趣味のマジックを披露してきた。避難所三ケ所とも雑魚寝状態でプライバシーも守られない環境の中２５０人位が長期滞在しており、仮設住宅への移動が急務と思われた。出来る限りの支援を継続し、機会があればまた現地に来たいとの思いを強く感じながら帰宅した。

短くも充実した１日だった。最後に、製薬会社、卸業者や医師会員の方々からお預かりしたダンボール１０箱ほどの支援物資を届けられたこと。多くの皆様のご理解とご協力で支援救護活動に参加できたことに感謝し報告とする。ありがとうございました。

**奈良医院ホームページより抜粋**

**（http://www.digital-k.com/nara.htm）**

以上

# ビハーラ秋田 復興支援プロジェクト

## ◈ 東日本大震災支援イベント　のしろ元気フェスティバル

平成23年５月22日（日）、能代商工会議所・商店会連合会・能代まちづくり合同会社主催により、被災地復興支援と共に、自粛ムードで沈滞気味の地元商店街の活性化を目的としたこのイベントに、「復興支援プロジェクト」の一環として当会も“協賛”させていただきました。支援バザーの景品提供、チャリティＴシャツの販売の他、「いのちについて」と題して、ビハーラ会員である渡邊紫山さん（松庵寺住職）と村越正道さん、エッセイスト・あゆかわのぼるさんとの対談も行われました。

## ◈ 第１回　ボランティアバス　（５／３０～３１、２１名参加）

５月30日、午後８時、９名を乗せて、いとく鷹巣ＳＣを出発、いとく能代ＳＣで更に９名、途中秋田・横手で３名が乗車、２１名で陸前高田に向かう。深夜２時、陸前高田・普門寺様に到着、仮眠。明け方にトイレ・洗面所をお借りし、先遣隊の佐々木賢龍師、更に県南からの３名と合流、普門寺方丈様にごあいさつ。本堂へどうぞとのご案内をいただき、三百以上もの一時預かりのご遺骨に圧倒されつつ読経。この度の震災犠牲者の冥福と、今日の作業での無事を祈る。その後ラジオ体操で体をほぐし、作業に備える。午前８時、陸前高田市ボランティアセンター（ＶＣ）に向かい、岩手曹青と合流、総勢４２名での作業となる。この日は小友町にて水田に散乱した倒壊物、流出物の撤去および遺失物捜索。海沿いの市中心部の幹線道路は通行可。通行止めや通行注意箇所多数。目的地になかなか入ることができず、10時頃作業開始。

前日の大雨により、ぬかるんだ田んぼの作業に足を取られ体力消耗、水を吸った畳等の重さに四苦八苦。畦道はあるものの、泥上の一輪車走行のため、廃材を利用しバイパスを作成利用するなど、徐々に作業効率を上げる工夫を各々で実行する。U字コンクリートや大きな柱など、やはり大人数が必要、重労働ながら人海戦術で運び出せる限り運び、午前と午後で３枚の水田を清掃。時折、写真やアルバム、位牌の一部などゴミにはしづらいものも多数発見。

重機の入らない・入れない場所の復旧作業には、大人数での参加が重宝がられた。作業前後で風景が見違えるため、達成感と貢献度が高く感じられるとの参加者の声が多数。現地案内役の区長さんは、自分の田は後回しで他の方の田での作業を優先的に指示、複雑な心境が垣間見える。長期にわたる支援が必要と実感する。午後３時に撤収、とにかくケガもなく安堵。ＶＣに借り物の道具を返却時、多少の混乱あるも無事に作業終了、ＶＣでは細菌予防のうがい薬や飲み物・お菓子等のサービスあり。岩手・秋田の参加者一同で記念撮影、今後も更なる連携を約束して帰路につく。途中の錦秋湖 SA にて入浴・食事を経て、能代に午後９時、鷹巣に１０時頃帰着、解散。帰り際の「また次回も案内下さい！」との声が心強い。今回の企画にご協力いただいた奈良先生、能代市・北秋田市社協、運転手の長谷川さん、現地の普門寺様やＶＣ、事前の情報提供や当日も何かとお世話いただいた岩手曹青様、そしてご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。

## ◈ 第２回　ボランティアバス（６／３０、３２名参加）

Ｔシャツ収益の活用第一弾として決まった仮設住宅談話室へのお茶セット（湯呑み・カップ・急須・お湯ポット・コーヒーメーカー・食器棚など）の寄贈と、そのお届けをかねての行茶ボランティア。一般参加者ともにバスで日帰り行程。朝４時にバスで鷹巣を出発、能代・秋田を経由し、途中物資をバスに積み込む。釜石ボラセンへ 10 時 10 分到着。遠野ボラセンでお茶セットを積み込み運んでくれた岩手曹青会と合流。秋田からの参加者を３班にわけ、鵜住居（うのずまい）

仮設 AB、CD と栗林（くりばやし）仮設に分かれる。11 時頃から準備し、昼食を挟んで活動開始。各戸へのビラ配りをし、お茶セットの開封・洗浄と納める為の食器棚の組み立てから始まる。今回は被災者へ「新品」のお届けという点にこだわり、あえて現地での開封となった。

釜石は雨の天気予報がはずれ、最高気温 34 度の猛暑。冷たいものの準備がなかったが、途中参加の佐藤堅明師の持参したかき氷機によるかき氷はやはり大人気。参加した柴田寛彦氏により血圧測定も行った。また岩手の三浦修悦師による三線演奏、沖縄の唄が大人気。鵜住居では AB が午前午後と延べ 20 人、CD が延べ 13 人程の来室。栗林では留守宅も多く、また各地より集まった入居者の面識はほぼ無く、来室は２名と少なかった。

来室の入居者が「抹茶を振る舞いたい」と、部屋から茶道用品を持ち出してボラ参加者に振る舞った。また別の人はお昼にうどんを持ってきて談話室で調理し、参加者に振る舞ってくれた。この度の交流の機会を大変喜んでくれていた。「この間の人は来てないの？」「また同じ人に来てほしい」という声があり、継続しての交流がしたいようだった。他の地域ほどではないそうだがハエ、アリが多い。仮設住宅の談話室は普段は施錠され、鍵は現在はボラセンが管理している。自主的に談話室を使いたい、鍵の管理を任せてほしいという声が多数。自治会組織の構築を望む声も有った。鵜住居では同じ仮設に入っていたとは知らなかった旧知の人と今回談話室で再会出来た人がいた。栗林では隣の人と声をかわす機会もあまり無く、交流の機会を持ちたがっているようだった。この談話室が持つ役割・可能性・必要性は大きいと皆が感じた。

今回キーコーヒー秋田営業所様からコーヒー豆・シュガー・マドラーなど、㈱いとく様から社員６名の参加とお茶・ふきん沢山のご提供をいただきました。

午後３時まで活動し、釜石ボラセンを４時半に発つ。途中の店で夕食をとり鷹巣着は午後 11 時過ぎ。

## ◈ 第３回　ボランティアバス（７／２１、１９名参加）

チャリティＴシャツ収益の活用として仮設住宅談話室の備品（湯呑み・カップ・急須・お湯ポット・コーヒーメーカー・食器棚など）を寄贈し、そのお披露目を兼ねた行茶活動を前回に引き続き行ってきました。

午前９時半、釜石市災害ＶＣ着。談話室のカギを受け取り日向（ひかた）地区仮設へ、Ａ・Ｄ・Ｅ棟の３班に分かれる（後にＡ・Ｄの２ヶ所に人員を集約）。各戸にチラシを届けながら、サロン開催を周知するが不在のお宅が多い。３ヶ所とも談話室のガスが使えず、業者の処置が必要な状態であったが、コーヒー（ホット・アイス）に冷たい麦茶で「お茶っこサロン」開始。後にガスも使える状態となり、お湯を沸かして温かいお茶も用意。この日は晴天だが連日の猛暑から気温が大幅に下がり、温かい飲物のオーダー多し。用意したかき氷機は、この日はお役ご免。参加者が持参した、秋田のご婦人お得意の“寒天ゼリー”等の手作りデザートが好評。午前の来場者はまばら。他地区でも聞かれたことだが、住民の声から談話室の存在すら知られていなかったことを、ここでは特に強く感じる。

午後になり、徐々に来場者が増えて賑やかな雰囲気に。かつて港湾施設で働いていたという 70 代男性、昭和から平成に至る釜石の盛衰から、伝統の「虎舞」など民俗文化にまつわる話、この度の震災発生時のリアルな体験談、民謡や民話、はたまたショートコント？で一同盛り上がる。「こういう場所があると、みんなで集まれるので楽しい」との声を数人から聞く。

名残惜しいところで午後３時撤収。ＶＣにカギを返却＆今日の報告、帰路につく。東和 IC 付近の「東和温泉」で入浴（希望者のみ）・夕食の後、能代着が 10 時、鷹巣での解散が 10 時半過ぎとなる。二度目・三度目となる一般からの参加者もいて、チームワークが増してきた感あり。

***近日中に第４回を実施します。ご参加ご協力よろしくお願いいたします！***

# インフォメーション

## ◈ 「東日本大震災」復興支援チャリティーＴシャツ！

秋田県曹洞宗青年会とビハーラ秋田の共同企画として「東北のために祈りを、支援を、そして行動を」という願いを込めたデザインのＴシャツが作成されました。

被災地での支援活動のユニフォームとして、活動メンバー間の連帯を深め、被災地住民との信頼関係の象徴として活用されています。

■ デザイン（www.fukoblog.com）

ニューヨークでアートディレクターとしてご活躍中の中鉢富砂子さん

…マイケルジャクソンも担当

■ サイズ

生地（ﾄﾞﾗｲﾒｯｼｭ）／（M・L・LL・3L）

■ 価格：2,000 円

■ 収益について

1 枚につき 1,100 円をチャリティーとして被災地の災害ボランティアセンター並びに私たちの活動を通じた復興支援に用います。皆さまのお気持ちを共有する一つの方法としてご協力いただければ幸いです。

■ ご注文・お問い合わせ

秋田県山本郡藤里町藤琴３　宝昌寺（新川）　TEL0185-79-1522

FAX0185-79-1539

ホームページからでも注文可

秋田県曹洞宗青年会

（http://www.sousei-akita.net/）

ビハーラ秋田（http://vihara.main.jo/）

被災地での活動や各種支援イベントの際に、また被災地の友人へのプレゼントに、様々なシーンでご活用ください！

**残りわずかとなりました。**
**お求めはお早めに！**

◈ **被災地支援企画のお知らせ**

# 「東日本大震災」追悼と復興への“祈り”

どなたでもご参加下さい。皆様のお越しをお待ちしています。

【日時】10 月 29 日（土曜）午後１～４時
【場所】“鎌沢大仏”正法院（北秋田市鎌沢）
※入場無料

大槌町で被災地支援を行う「吉里吉里元気プロジェクト」への募金やグッズ販売にご協力をお願いいたします

■内　容

13:00　「東日本大震災」追悼法要
13:40　講　話　　大槌町・吉祥寺住職　高橋英悟師
「2011 年３月 11 日　吉里地区のあの時」
14:45　ミニライブ　　RIA＋ノリシゲ

大槌町出身のシンガー。音楽活動と共に「吉里吉里元気プロジェクト」を立ち上げ、精力的な支援活動を行っている。復興支援チャリティソング『歩きましょう』はテレビ CM でも話題となっている。

【主催】秋田県曹洞宗青年会　http://www.sousei-akita.net/
お問い合せ　090-4041-9451（担当:新川）

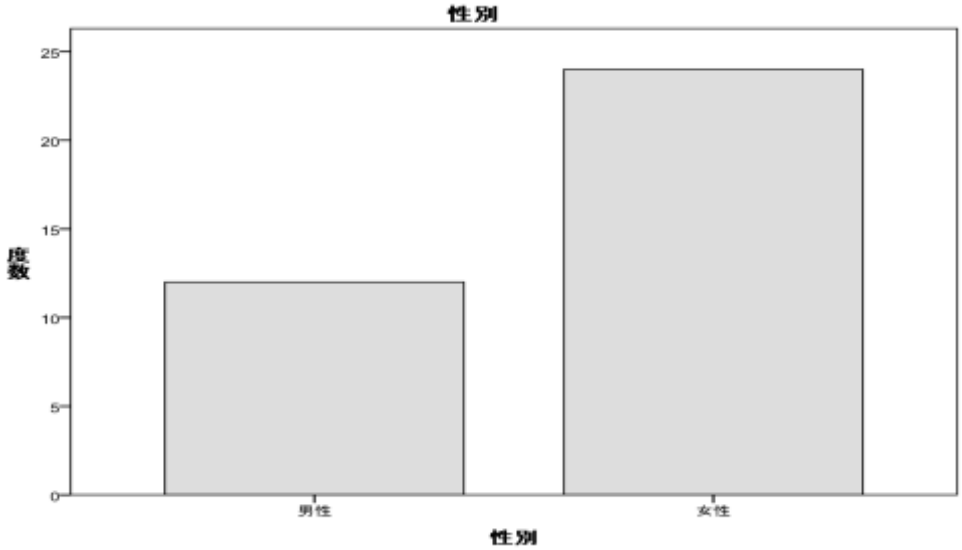
★同日午後 7:30 から能代市民プラザ（能代駅前）にて
「RIA＋ノリシゲ」チャリティライブが行われます
（前売 2.500 円　ワンドリンク付）
チケットは能代市民プラザ・ランマン酒店・アサヒ楽器などにて
お求めください。その他詳細は同じく新川まで

# アンケート結果報告

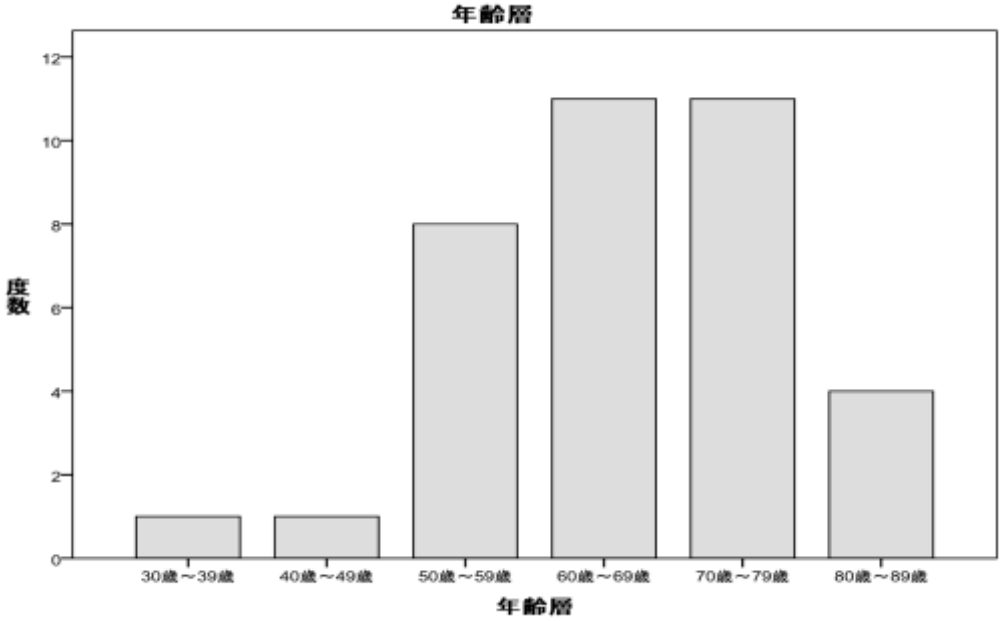
アンケートご協力ありがとうございました。

36 人（約 30%）の方がご回答下さいました。回答率は低いものの、全体的な傾向は把握できたのではないかと思います結果を主に棒グラフで示しましたのでご参照ください。今後も皆さまが「ホッと」できるリポートをお届けできればと思います。

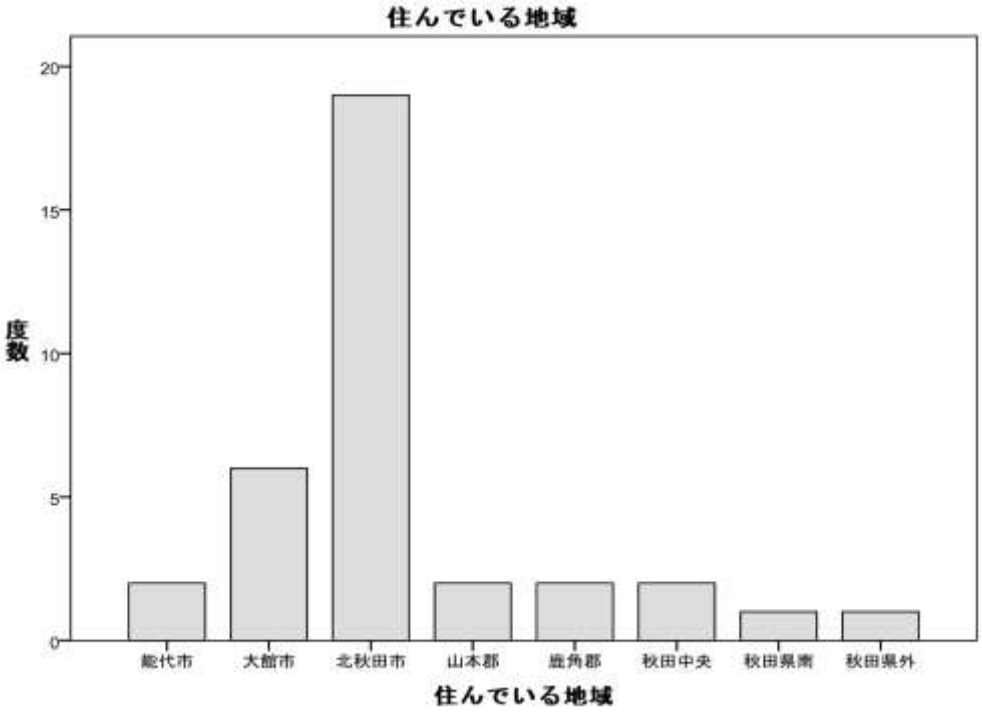
性別　女性が多く、男性は女性の半数です。



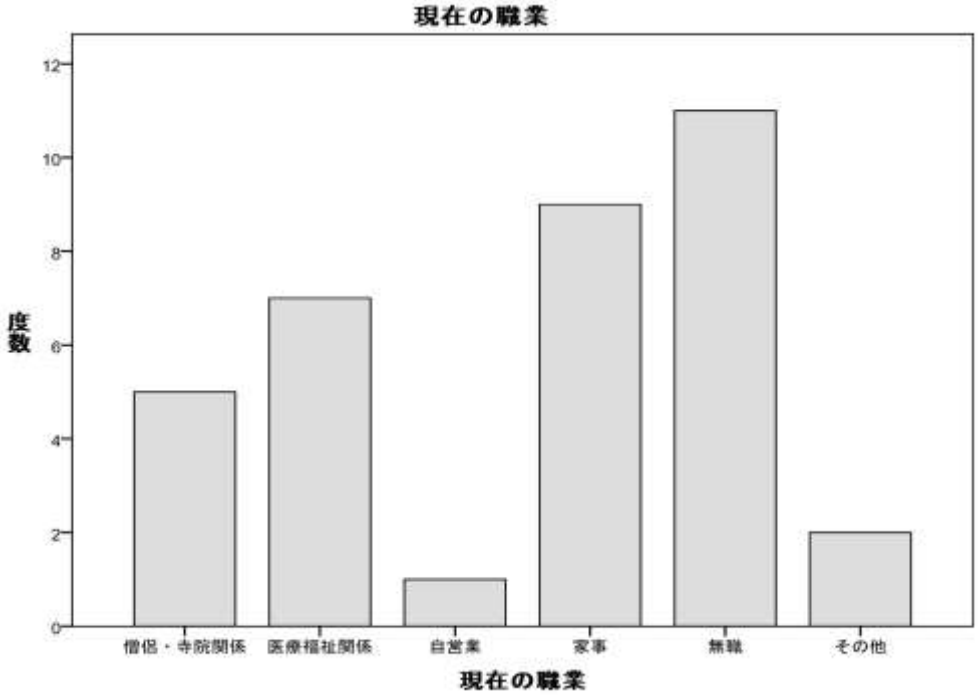

年齢層　50 歳代以上が多く、４０歳代以下が極端に少ないです。



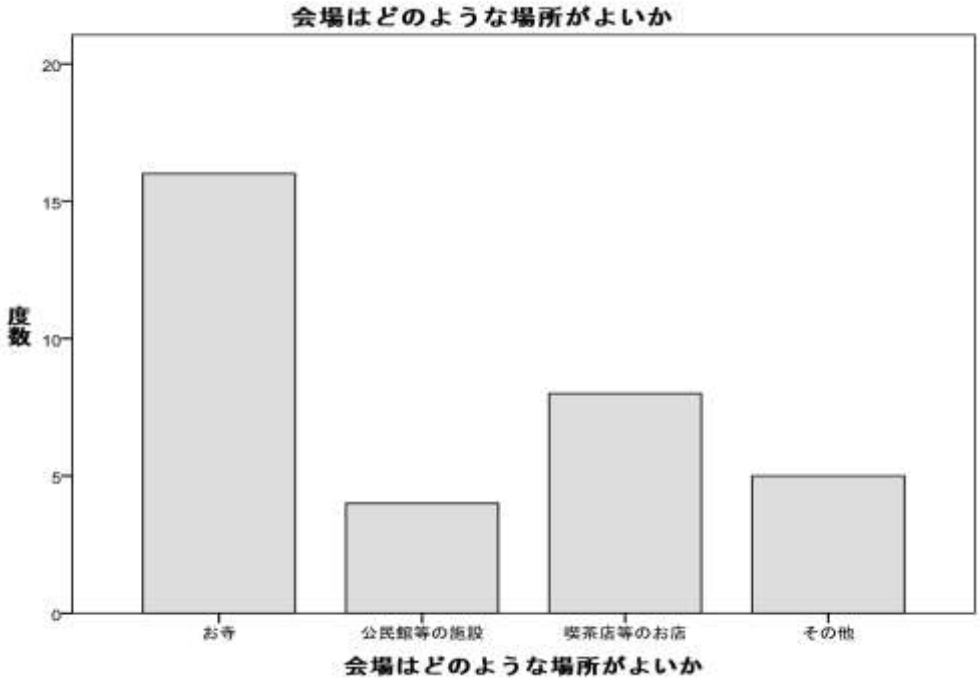
**住んでいる地域**　北秋田市の会員数が圧倒的にトップです！！



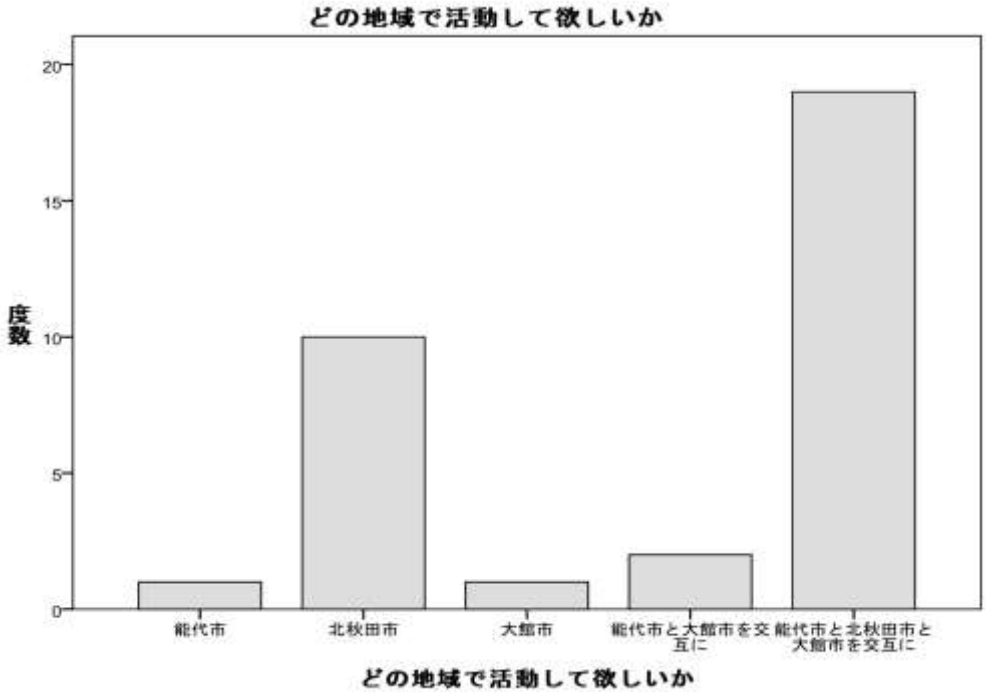

**職業**　ビハーラ会員の多くが医療従事者や僧侶以外の方々であることがわかります。



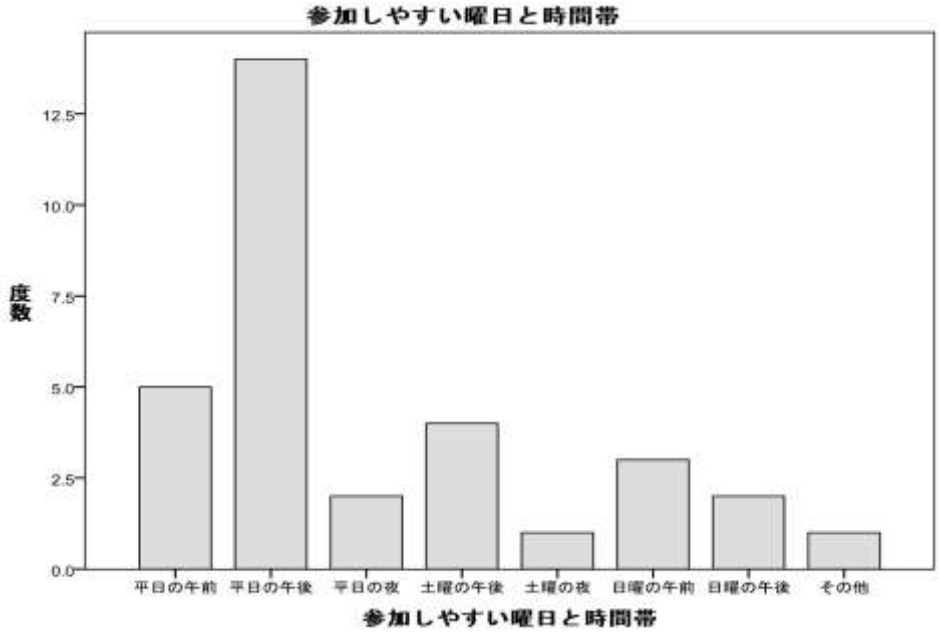
**会場について**　喫茶店もさることながら、やはりお寺の雰囲気に触れたい方が多いのかもしれません。




**活動地域について**　北秋田市中心というよりも、大館と能代と北秋田市を順にした方が参加する方が増えるかもしれません。

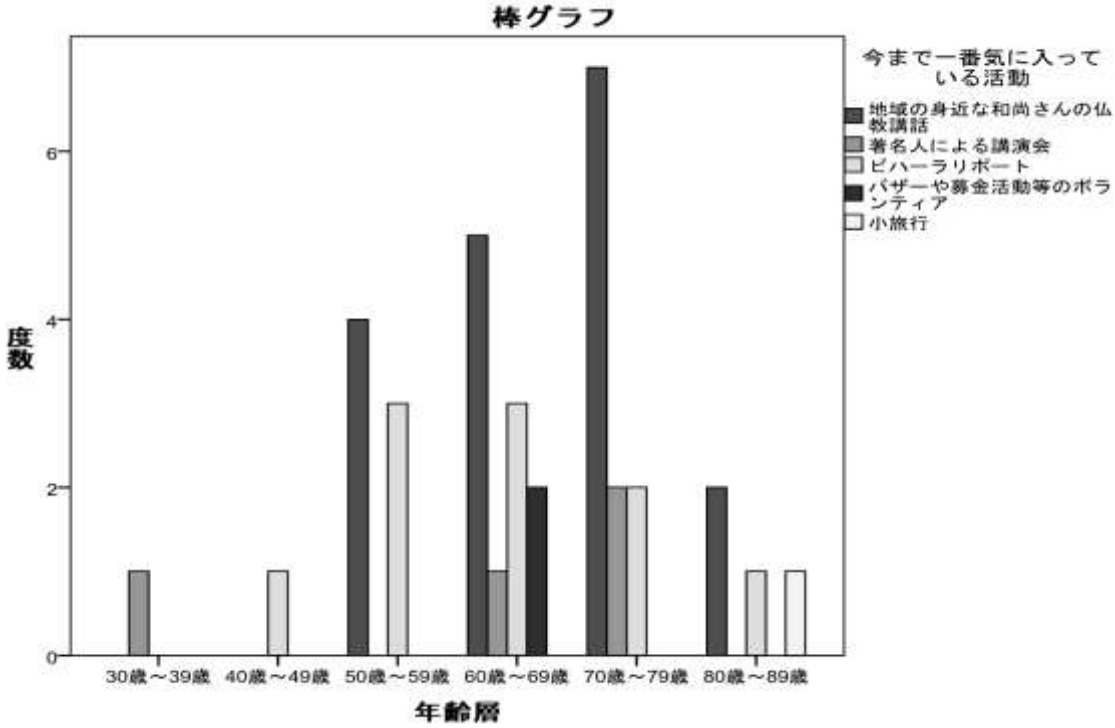


**活動時間帯**　以外にも平日の午後が参加しやすい方が多いということがわかります。



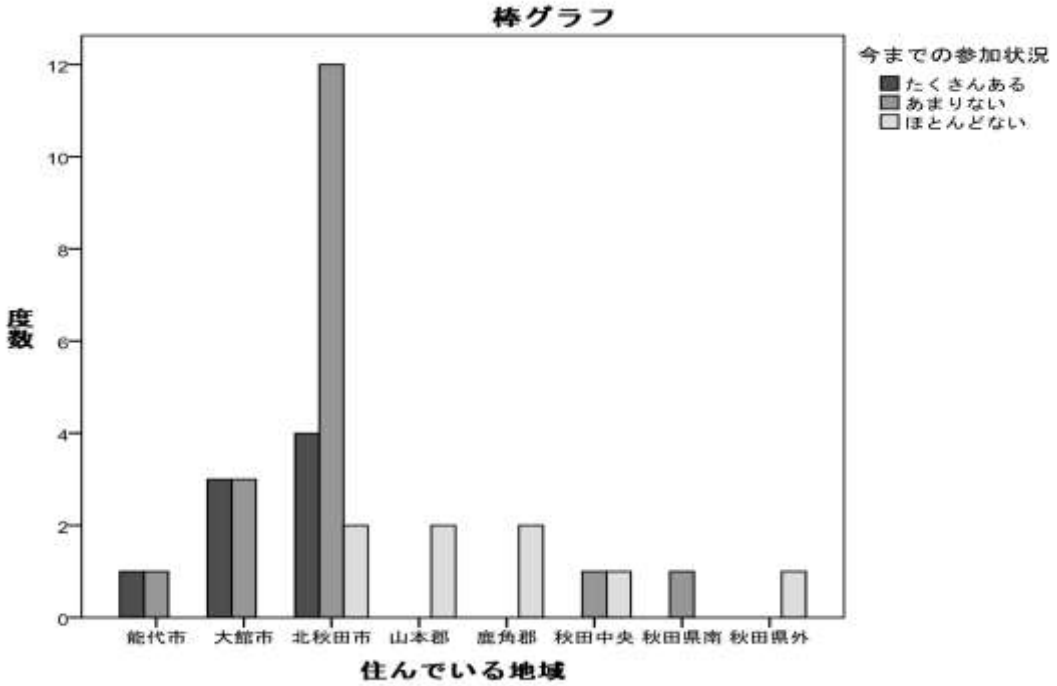

**気に入っている活動（年齢層別に…）**

様々な年齢の方々に共通して、地域の身近な和尚さんのお話を聞くことがお気に入りのようです。



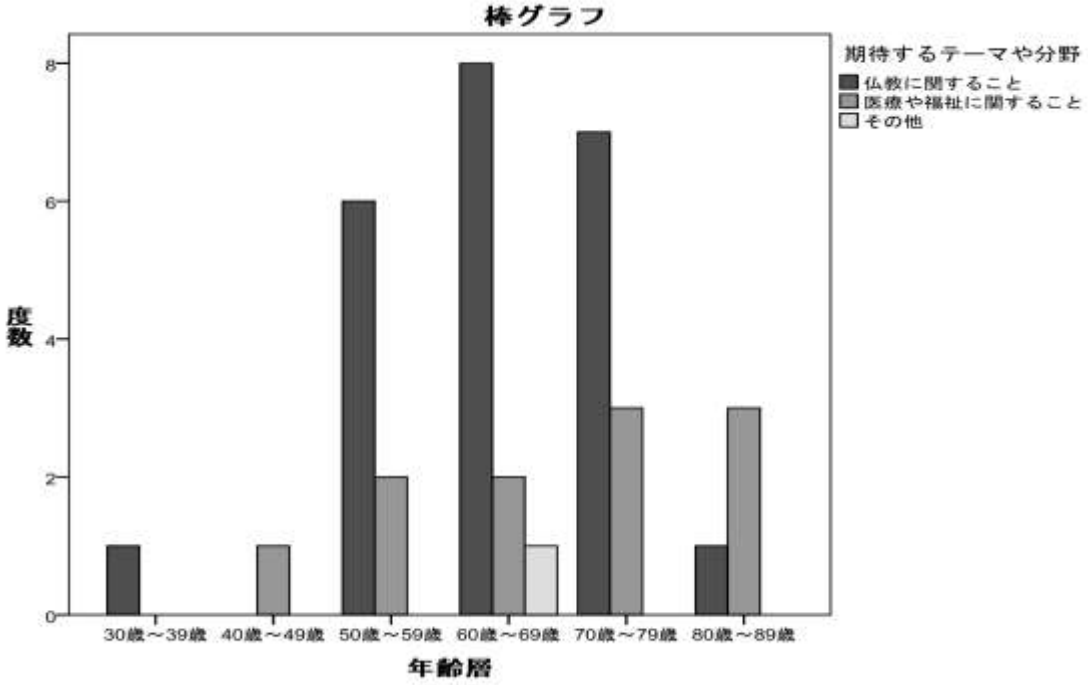
**今までの参加状況（住んでいる地域別に…）**

どの地域を見てもたくさん参加される方はごく少数で限られています。




**期待するテーマ（年齢層別に…）**

土台である仏教に関するテーマがやはりはるかに期待されています。



**自由意見より一部抜粋**

- 新川新代表の「お寺に還ろう！」に大賛成です。大地震が発生し、それでなくても生きにくい世の中です。ひとりひとりどんなに不安を抱えて生きていることでしょう。今こそ安らぎを覚えるお寺の空間に身を置いてくれる人が一人でも増えることが望まれます。お寺さんも「今こそお寺においで！」と声を出していただけたらありがたい。これこそ大事なビハーラ活動ではないでしょうか。
- 麦のうたで行われた「いのちについて」に、親子3代で参加させていただき有意義な時間を過ごすことができて感謝しております。もっといろいろな方とコミュニケーションをとれたら良かったとも感じましたが会を重ねて行っていただけますことを思います。
- 近いところでの講演などにはできるだけ出席したいと思います。
- 喫茶店法話会は是非続行してください。たまにビハーラの諸問題をシンポジウム形式でそれぞれの分野からの発言討議は必要。
- ビハーラリポート楽しみにしています。これからも読んでほっとするような安らぎのあるレポートであってください。
- 年のせいで各地のお寺に出向くことができませんので、日本各地のお地蔵さまを映像で特徴をみせて頂きたいと思います。
- 各地のお地蔵さんの写真の笑顔が心のビタミン剤です。秋田市で僧侶のお話会を開催してほしいと思います。
- 継続は力なりと申しますので、いつまでも継続できますビハーラであってほしいと念じております。
- 和尚さんのお話を聞いておりますと、やさしくなれてホッとしますので、長く継続できますことをお願いします。ほんとうにありがとうございます。
- 講演会に出席することが不足がちのため、ビハーラリポートを参考にしておりますので、今後も継続するようよろしくお願いいたします。
- ビハーラリポートを手にする時、なぜかほっとした気持ちになります。自分自身が救われたと笑顔になれることができます。足腰が弱くなり講演会にも参加することが困難になりました。リポート会員になって楽しみに待っております。
- ビハーラリポート編集本当にご苦労様です。スタッフの皆様の思いが伝わってきます。活動には参加できませんが、リポートを通して勉強させて頂いております。
- これまでの内容と同じであっても良いので活動を継続して欲しいです。よろしくお願いします。
- 若い和尚さんの仏教の講話を期待したい。今の時代の生活環境と仏教伝来時代の生活・時代・環境を通した現代社会のあり方、人間性を中心にした内容を若い和尚さんに期待したい。

# ビハーラ入会案内

**随時入会できます。各事務局までご連絡ください。**
**ビハーラリポートや各種ご案内を送付します。**
**年会費　2，000円**

**郵便振替　02580-5-50937**

| 各地区事務局 | | |
|---|---|---|
| 能代地区 | 袴田　俊英 | 0185-79-2468(月宗寺) |
| 藤里地区 | 新川　泰道 | 0185-79-1522(宝昌寺) |
| 二ツ井地区 | 木村　高寛 | 0185-73-2755(梅林寺) |
| 鷹巣地区 | 佐藤　俊晃 | 0186-66-2032(龍泉寺) |
| 大館地区 | 越姓　玄悦 | 0186-49-6957(源守院) |
| 森吉地区 | 奥山　亮修 | 0186-72-4143(龍淵寺) |
| 阿仁地区 | 今井　典夫 | 0186-82-2418(善勝寺) |
| 上小阿仁地区 | 保坂　康雄 | 0186-77-2750(福昌寺) |
| 合川地区 | 亀谷　隆道 | 0186-78-2344(太平寺) |
| 比内地区 | 小林　匡俊 | 0186-55-1144(正覚寺) |
| 男鹿地区 | 三浦　賢翁 | 0185-24-3546(大龍寺) |
| 鹿角地区 | 桜田　勝心 | 0186-32-2672(大徳寺) |

【編集後記】

大震災で己の生死観を根本から問い正すこととなり、また周囲を取り巻く環境が想像以上に変化しています。このような機に際し、お地蔵さまのように謙虚な態度で、自分自身のあり方を考え、これからのビハーラ秋田にも向き合いたいと思います。富樫

**事務局から**

**年会費未納の方は、同封の振替用紙にて納入をお願いいたします。また「東日本大震災　復興支援プロジェクト」への賛助金も募集しています。度々のご負担で恐縮ですが、何卒よろしくお願いいたします。**

**※既に今年度の年会費をお納めいただいた方にも、振替用紙を同封させていただきました。あらかじめご了承ください。**

**皆様からのご意見・ご感想、情報・案内などお待ちしております。**
**ビハーラ事務局（能代市　倫勝寺）**
**仁井田白山13 電話 0185（58）2302　fax 0185（58）2594**
**Eメール　vihara@jt.main.jp**